

NEWSLETTER

No.59

5 January 2015

・2014年地理学教室の行事記録	・・・・・・1
・第14回地理ワークショップの開催	・・・・・・2
・2014年度国士舘大学地理学会夏季巡検報告	・・・・・・3
・2014年度地理実習の記録	・・・・・・5
・加藤ゼミの調査が「北海道新聞」に取り上げられました	・・・・10
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・11
・2014年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・12

【2014年地理学教室の行事記録】

- 2月 5日～ 7日 2013年度卒業論文公開口頭試験
- 2月13日 国士舘大学地理学会冬季巡検 東京湾岸地区巡検（加藤）
- 3月19日 学位記授与式
- 3月26日～28日 日本地理学会春季学術大会（国士舘大学世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎）
- 5月 3日～ 5日 福島農村実習（宮地）
- 5月21日～22日 地理学野外実習A（1年生実習，川崎市麻生区黒川地区：専任教員全員）
- 5月11日 野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
- 5月31日 野外生物観察会（鶴川：磯谷）
- 6月14日 国士舘大学地理学会（34号館 B205教室）
<総会>
<講演会>小泉 諒先生（本学非常勤講師）
「変わりゆく東京大都市圏の社会・空間構造
－1990年代以降を対象として－」
<懇親会>1号館1階学生ラウンジ
- 6月27日 9月卒業論文公開口頭試験
- 7月12日 築地市場巡検（宮地）
- 7月26日 第14回社会科教員のための地理ワークショップ（34号館 B205教室）
<テーマ>「地理の目で見る南の島・沖縄」
（講師：柴田 健，中井達郎，長谷川 均）参加者40名
<懇親会>34号館地下食堂
- 8月 3日～ 5日 学外実習（群馬県川場村：宮地）
- 9月 5日～12日 長谷川ゼミ沖縄実習（沖縄本島：長谷川）
- 9月 8日～10日 国士舘地理学会巡検（岩手県南部：磯谷・宮地）学生参加者9名
- 9月20日 9月卒業式
- 9月20日～21日 福島農村実習（宮地）
- 10月 1日～ 2日 地理学野外実習B（2年生実習：専任教員全員）
- 10月21日～24日 地理学野外実習C（3年生実習：専任教員全員）
- 12月20日 国士舘大学地理学会（34号館B203教室）
<研究発表会>高中 亮，高水 紘，田口 翼，中根敏江・根本崇弘・高橋和人，中村周平，石黒敦志，小沼 大
<講演会>石原 肇氏（東京都庁）「地理学を地方行政の現場で生かす」
大伴真吾氏（朝日航洋(株)）「航空測量業界の仕事と今後の展望
について」
<懇親会>1号館1階学生ラウンジ

【第14回地理ワークショップの開催】

テーマ:「地理の目で見える南の島・沖縄」

地理・環境専攻では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、2001年度より「地理ワークショップ」を開催しています。2014年度も7月26日（土）に、「地理の目で見える南の島・沖縄」をテーマにワークショップを開催しました。担当講師は、長谷川均（専攻スタッフ）、中井達郎（本学非常勤講師）、柴田健（元神奈川県立高校教諭）の3名でした。地図、地形、地形と生活、沖縄の経済・基地、そして沖縄修学旅行など、内容は多岐にわたりました。参加者数は40名でした。

また、今年度はこれまでに寄せられた意見や教室での検討を踏まえて、例年とは少し違った方法にて実施しました。ポイントは3点です。①講義／講演形式での開催、②一般の方（教員以外）の参加の歓迎、③1日のみでの開催です。

① ワークショップという名前ですが、講義を聞いてもらう形にしました。②も意識していたからです。

② ただ、広報の仕方が悪く（例年と変わらず）、結局参加いただいたのは中高の先生またはそれを目指す方々でした。世田谷区の広報に載せるのを思いついたのが、原稿締切の翌日でした……。

③ 概ね好評だったかな、と。

参加者へのアンケートをもとに、来年度以降の開催方法等については教室内でこれから話し合っていく予定です。

（加藤幸治）

◎プログラム

◆7月26日（土）

陸域の開発とサンゴ礁環境の変化	長谷川 均
占領アメリカ軍が作った沖縄の地図	長谷川 均
サンゴ礁保全 ～地理学からのアプローチ	1.....	中井 達郎
サンゴ礁保全 ～地理学からのアプローチ	2.....	中井 達郎
沖縄の歴史と現代 ①米軍基地と沖縄経済	柴田 健
沖縄の歴史と現代 ②平和教育としての沖縄修学旅行	柴田 健
交流会		



写真1. 長谷川先生の講義の様子



写真2. 中井先生の講義の様子



写真3. 柴田先生の講義の様子

【2014年度 国土館大学地理学会夏季巡検（岩手南部巡検）報告】

2014年9月8日から10日の2泊3日で、国土館大学地理学会の夏季巡検が岩手県にて実施されました(図1)。参加学生は9人(2年3名, 3年6名)でした。引率は、磯谷達宏先生と宮地忠幸先生にお願いしました。現地での移動には、レンタカーを利用しました。

2014年度 国土館大学地理学会 夏季巡検行程表		
●	行	先：岩手県奥州市，住田町，遠野市，釜石市，陸前高田市，気仙沼市，一関市 方面
●	期	間：2014年9月 8日(月) ～ 2014年9月10日(水) 《2泊3日》
●	テ	マ：「岩手県南部の地理と震災後の復興の現状」
●	行	程：(移手段：レンタカー <u> </u> 徒歩 <u> - - - -</u>)
日次	月/日 (曜)	行 程
1	9/8 (月)	水沢江刺駅 13:30 <u> </u> 14:40 種山高原(物見山) 15:35 <u> </u> 15:50《道の駅》種山ヶ原 16:05 <u> </u> 17:00 住田町役場新庁舎 17:10 <u> </u> 17:50 遠野駅 18:00 <u> </u> 18:30 民宿とおの ■集 合…13:30 水沢江刺駅改札前 ■宿泊先…民宿とおの 岩手県遠野市材木町2-17
2	9/9 (火)	民宿とおの 9:30 <u> </u> 9:45 遠野市立博物館 10:05 <u> - - - -</u> 10:15 鍋倉公園 10:45 <u> </u> 11:00 《道の駅》遠野風の丘(軽食) 11:30 <u> </u> 11:50 遠野ふるさと村 12:50 <u> </u> 13:10 カッパ淵 13:40 <u> </u> 14:20 JR陸中大橋駅 14:30 <u> </u> 14:40 釜石鉱山 14:50 <u> </u> 15:20 釜石市内散策 15:30 <u> </u> 15:40 サンフィッシュ釜石(昼食) 16:25 <u> </u> 17:00 釜石大観音 17:30 <u> </u> 18:30 大船渡プラザホテル 19:00 <u> - - -</u> 19:15 大船渡復興屋台村(夕食) ■宿泊先：大船渡プラザホテル 岩手県大船渡市大船渡町字茶屋前34-5
3	9/10 (水)	大船渡プラザホテル 8:50 <u> </u> 9:50 陸前高田観光ガイド(震災復興ガイド) 12:10 <u> </u> 12:20 奇跡の一本松 12:50 <u> </u> 13:10 一本松茶屋 13:20 <u> </u> 13:50 気仙沼復興商店街(昼食) 14:25 <u> </u> 14:30 気仙沼市内散策 15:50 <u> </u> 16:15 JR折壁駅 16:25 <u> </u> 16:55 《道の駅》かわさき 17:20 <u> </u> 17:40 一関駅 ■解 散…一関駅

図1. 岩手南部巡検の行程

1日目、まずは水沢江刺駅に集合した後、レンタカー2台で種山高原(物見山)へ向かいました。道中では、先生方が事前に決めていた停車ポイントに止まりながら、磯谷先生と宮地先生が地形図を使って岩手県南部の植生や地形、土地利用の特徴について説明してくれました。種山高原(物見山)に到着後、駐車場から物見山の頂上まで歩いて散策しました。散策中、磯谷先生が植生の説明があり(写真1)、種山ヶ原周辺ではナラ林が多く分布していることがわかりました。また、北上山地の準平原の特徴を物見山の山頂から確認しました(写真2)。道の駅種山ヶ原では、直売野菜などをみて、地元の特産品について学びました。その後、住田町新庁舎を外から見学しました。新庁舎は、林業が主要産業である住田町のシンボルとして地元の木材を使用した建造物でした。



写真1. 植生と地形の説明をする磯谷先生

写真2. 種山高原(物見山)からの眺望

2日目、午前中は遠野市内を巡り、午後からは釜石市、大船渡市へ向けて被災地の現状を見学しました。

まず、民宿から遠野市立博物館へ行き、遠野の歴史、産業などを学びました。そして、市立博物館から徒歩で鍋倉公園の展望台へ行き、遠野盆地を一望しました（写真 3）。その後、道の駅遠野風の丘で地元の特産品を見学し、遠野ふるさと村やカッパ淵など、“遠野物語”に関連する施設や場所などを見学して、遠野についての知識を深めました。そして、釜石市へ向かう途中で釜石鉱山を見学し、釜石地域が古くから製鉄業を営んでいた土地であることを学びました。その後、釜石市内を巡り、地元の方から震災当時の事など貴重なお話を聞くことができました。そして、釜石大観音から釜石市を一望しました。釜石市内を一望することで津波がどのように襲ってきたのか、また復興がどの程度進んでいるのかを知りました。そして夕食は、大船渡復興屋台村へ行き、屋台村の店主や地元の方から貴重な震災当時の話を聞きながら、夕食を食べました。この大船渡屋台村は、2015年に土地のかさ上げ工事が始まるためなくなってしまうとのことでした。



写真 3. 鍋倉公園展望台からの眺望



写真 4. かさ上げ事業のため設置されたコンベアー

3 日目は、宿泊先の大船渡プラザホテルから陸前高田市へ、海岸線を通りながら向かいました。陸前高田市では、2 時間ほどボランティアの方のご案内で、陸前高田市にある被災建築物や仮設住宅などを巡りながら、被災当時の様々な出来事や復興事業について学びました。私たちは、ガイドの方が体験した震災当時の思うと言葉を失い、涙がこみ上げてきました。また、震災前と様変わりしてしまった陸前高田市の現状と現在進んでいる復興事業（写真 4）について学びながら、復興へ向けた課題についても知ることができました。これから取り組んでいく政策などを知ることによって、復興へ向けて地域が少しずつ進んでいるということがわかりました。その後、陸前高田市の被災のシンボルである「奇跡の一本松」を見学（写真 5）し、気仙沼市へ向かいました。その後、気仙沼復興商店街で昼食をとり、気仙沼の市街地を見学しました。気仙沼市は地盤沈下が著しく、いまだに住宅跡地に水たまりがいたるところにありました。地盤沈下の影響で他の街に比べ、復興が進んでいないと感じました（写真 6）。気仙沼市から一関市へ向かう途中、JR 折壁駅がありました。この折壁駅は、JR 大船渡線が震災で甚大な被害を受けた際に、仮復旧で導入された“BRT（バス高速輸送システム）”の駅で、“BRT”の現状をみるために立ち寄りました。その後、道の駅かわさきで地元の特産品について学び、無事一関駅に到着し、巡検を終えることができました。



写真 5. 陸前高田「奇跡の一本松」と被災建築物



写真 6. 津波の痕跡が残る気仙沼市浜町

今回の巡検は、少人数の参加だったこともあり、先生方や陸前高田のボランティアガイドの方に多くの質問をしながら、地域の特徴や震災被害の状況を詳しく学ぶことができました。また、東日本大震災の被災地を訪れて感銘を受けたことは、私たちに当時の被害の様子を丁寧に説明して下さる方々がたくさんいらっしゃることでした。実際に被災された方からお話を伺い、当時の様子を生々しく知ることができました。震災から3年半経った現在(9月時点)でも、まだ人々が震災以前のように生活する環境にまで復興していないことがわかりました。仮設住宅で生活することを強いられている被災地の方々を思うと、私たちにできることは何なのかと考えさせられました。そして震災は一瞬にして起きますが、復興は途方もない時間を必要とすることもわかりました。私たちは今回の震災を過去の出来事として置き忘れていくのではなく、常に関心をもつことが大事なことのひとつと感じました。関心をもつことが、今の私たちにできることであり、それが復興の小さな手助けに繋がっていくのではないかと思います。

巡検中は大幅な旅程変更があったにも関わらず、参加者は混乱することなく、無事に巡検を終了することができました。事前・巡検中と幾度も適切なアドバイスをくださった磯谷先生と宮地先生に心から感謝しています。そして、参加した学生の皆さんには、ボランティアガイドの方々がお話して下さった貴重なお話を忘れることなく、それぞれの心の中にいつまでも留められていることを願っています。ボランティアガイドの方々にはこの場をかりて感謝申し上げます。貴重なお話をしてくださりありがとうございました。

(国土舘大学地理学会 行本部 鈴木 貴子, 編集部 伊辺明里)

【2014 年度地理実習の記録】

1 年生地理学野外実習 A : 5 月 21 日 (水) ~5 月 22 日 (木) 実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実 施 地 : 川崎市麻生区黒川地区

参加学生数 : 70 名 (男子 56 名, 女子 14 名)

テ ー マ : 丘陵地の自然環境と人間生活 — 映画「ラストサムライ」の間違いを読み解く —

目 的 : 多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い、地形と土地利用の関係、都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて、地理調査や地理的思考法の基本を体得する。

課 題 : 図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート。
提出日時 ...7 月 22 日 (火) 5 限「地域調査法」の授業時



写真 1. 1 日目は雨天の中土地利用調査を実施



写真 2. 多摩丘陵の谷戸を歩く学生たち

地理学野外実習 B (2 年生対象) : 10 月 1 日 (水) ~10 月 2 日 (木) 実施

◎野口

実 施 地 : 長野県霧ヶ峰高原

参加学生数 : 10 名 (男子 7 名, 女子 3 名)

テ ー マ : 霧ヶ峰 (1,925m) 高原を例に、本州亜高山帯における自然環境を理解する

内 容 : 1) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系

「風と地形→積雪と凍結融解→植生分布」の関係を学ぶ。

- 2) 霧ヶ峰と人的関わり(縄文時代から今日まで) 黒曜石の採取(縄文時代), 狩場(鎌倉時代), 牧草の採草地(江戸時代以降), スキー場, 警察犬訓練, ハイキング, 別荘としての利用.

課題: 文献, 実習資料, 現地での説明をもとに, 霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動の役割についてレポートにまとめる. 事前の課題もレポートに含める.



野口班: 霧ヶ峰にて

◎長谷川

実施地: 三浦半島南部と城ヶ島

参加学生数: 8名(男子8名)

テーマ: この地域の特徴である海岸地形や地質を学ぶ

内容: この地域にみられる砂浜海岸や岩石海岸、関東大震災の際に隆起した海食台にみられる地形の観察方法を学んだ。また、海食台や岩石海岸で観察される特徴ある堆積構造、火山灰を観察した。

課題: 調査結果に基づいて、A4版10~15枚のレポートの作成。



長谷川班: 城ヶ島にて測量中の様子

◎内田

実施地: 長野県須坂市、小布施町、山ノ内町湯田中地区

参加学生数: 15名(男子15名, 女子0名)

テーマ: 観光地の調査と観光地に与えられた意味の解説

内容: ①長野市から長野電鉄線沿いに、須坂市福島・須坂・小布施・湯田中・渋温泉に残る歴史的町並を廻り、比較・観察する。

②温泉番付において東の横綱とされた名湯湯田中温泉において、宿泊施設の分布や集客圏を調査するとともに、その景観やイメージが観光資源としてどのように利用されているのかについて、人文主義地理学的手法を用いて考察する。

③小布施における葛飾北斎、渋温泉におけるモンパンの利用実態から、コンテンツ・ツーリズムの事例を観察する。

課題: レポート2本: 「須坂市における町並み調査の結果とその考察」と「観光地の記号としての「小布施」「須坂」あるいは「信州」の意味」



内田班: 渋温泉にある外湯「綿の湯」にて調査中

◎岡島

実施地: 群馬県桐生市・栃木県日光市足尾地区

参加学生数: 参加学生数: 8名(男子8名)

テーマ: 近代産業都市の発達と景観変遷

内容: 桐生市街地、特に桐生新町重要伝統的建造物群保存地区における町並み調査。桐生絹織物関係歴史的建造物と足尾銅山観光、わたらせ渓谷鉄道の見学。

課題: 標記のテーマについて所定の分量のレポート作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。



岡島班: 桐生の歴史的建造物を見学

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について、組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。

課題：指示された項目にしたがって、この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：縞枯れ現象の観察中

◎加藤

実施地：東京都品川区

参加学生数：8名（男子6名，女子2名）

テーマ：品川区における「工場跡地」の利用—品川の地誌，とくに産業構造転換と地域変化について—

内容：品川区内に15年前（1995年初）に立地していた工場（50人以上）の「その後」を調べる。現存する工場とその特徴（業種・立地の特徴など），跡地利用の状況（転換状況・土地所有など）やその特徴（業種・立地の特徴など）を調査し，都市の土地利用変化について考察する。それを通じて，経済地理学的な見方・考え方・調査法の基礎を学ぶ。

課題：調査結果に関する図を作成し，調査結果にもとづいた内容についてレポートする。



加藤班：ソニー大崎工場跡（現，ソニー関連ビル）を通る

◎宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：14名（男子7名，女子7名）

テーマ：農村における地域資源を活用した特産品づくり

内容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した。とくに，近年の川場村で取り組まれているリンゴやブルーベリーなどの果実を使った特産品開発（ジュース，ドレッシング，菓子類）の実態を，村役場，農業生産者，加工品製造業者，地元の直売店等でヒアリング調査した。

課題：現地での調査結果をもとに，図表を含めA4版12枚以上のレポートにまとめる。



宮地班：「日本一短いSL」の前で

地理学野外実習C（3年生対象）：10月21日（火）～24日（金）実施

◎野口

実施地：富山県富山市とその周辺地域

参加学生数：4名（男子3名，女子1名）

テーマ：地方気象台の役割と日本海側の気候と住民生活

内容：①富山地方気象台の役割について（見学と解説）
②日本海側（多雪地帯）にみられる生活の違い
③北陸地方（福井，石川，富山，新潟の各県における風の諸特性について

課題：事前の課題（「富山」の気候データの作図と指定課題論文の講読）および上記内容③についてのレポートを作成する。



野口班：富山地方気象台の見学

◎長谷川

実施地：千葉県南房総市（旧千倉町周辺）

参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し、現地調査を行う。

内容：海岸地形班（岩石海岸班、砂質海岸班）、海岸段丘班、土地利用調査班に分かれ、グループごとに設定したテーマと目的に沿って調査をした。海岸地形班は、砂浜海岸の微地形と堆積物の対応、岩石海岸を構成する微地形と地質との関係を調査した。海岸段丘班は、この地域で見られる段丘の特徴、分布範囲などを調査した。土地利用調査班は、この地域の土地利用とその変遷を調査した。

課題：各自設定したテーマにしたがって、現地で得たデータをもとに、A4版15～20枚のレポートを作成する。



長谷川班：千倉海岸での調査（海岸地形班）

◎内田

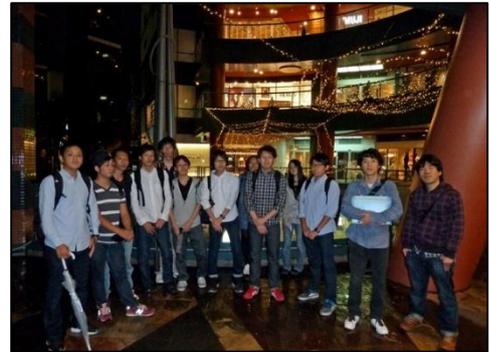
実施地：福岡市およびその周辺地域

参加学生数：13名（男子11名、女子2名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し、現地調査を行う。

内容：福岡市大濠公園利用者の行動特性、宗像市大島における民宿経営、柳川市におけるうなぎ取扱店の分布特性、原鶴温泉における観光客誘致の取り組み、小倉競輪場立地の地域的背景、門司港地区の観光化が住民に与えた影響、福岡市内の外国語表記について、福岡市近郊戸建て住宅居住者世帯の居住地選択、筑後吉井と八女福島における観光施設の変容、武雄温泉と嬉野温泉の比較、宇佐神宮と櫛田神社における参拝者の行動、など

課題：各自設定したテーマにしたがって、現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



内田班：中洲キャナルシティで

◎岡島

実施地：福山市および周辺地域

参加学生数：8名（男子8名）

テーマ：主として歴史地理学・交通地理学に関する地域調査

内容例：城下町の町並みの歴史的変遷—広島県福山市を事例に一、岡山県井原市周辺における軽便鉄道網の形成とその変遷、戦後の岡山県西部における交通機関の変遷と地元の反応—井笠鉄道・井笠鉄道バス沿線の事例—、地方鉄道の現状と課題—水島臨海鉄道を事例に一、井原鉄道の利用状況と課題、アムストラムライン開通に伴う沿線地域の変化、福山市のバス交通—中国バスを中心として—、広島市戦後復興期における市内交通路線網の変遷

課題：各自のテーマに従ってレポート作成。



岡島班：旧井笠鉄道矢掛駅

◎磯谷

実施地：香川県さぬき市

参加学生数：5名（男子5名）

テーマ：香川県北東部の生態地理

内 容：香川県北東部でみられる動植物の生態地理について、各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは、「二次林の種構成」「河辺草原の分布と組成」「哺乳動物の分布および被害状況と対策」「河辺性鳥類群集の分布」および「水生動物相および魚類のすみわけ」であった。

課 題： 図表を含めて A4 版 30 枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：本日，調査終了！

◎加藤

実 施 地：北海道中標津町とその周辺
参加学生数：6名（男子6名，女子2名）
テ ー マ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内 容 例：商店街に立地する地元商店の優位性，大規模小売店への来訪者の実態，町内宿泊施設の存立要因，開陽小学校の閉校による「地元」の変化

課 題：各自のテーマについて、『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。

※加藤ゼミの実習が、「北海道新聞」（後掲）に掲載されました。



加藤班：中標津町役場での聞き取り

◎宮地

実 施 地：北海道美瑛町
参加学生数：9名（男子6名，女子3名）
テ ー マ：班ごとに設定したテーマにもとづいて現地調査を行う。

内 容：①農業班：農地流動の実態と大規模経営農家の特徴，②特産品班：地場産農産物を活用した特産品開発の実態とその地域経済効果，③農村観光班：農村資源を活用した観光政策の展開とその効果，移住政策の展開と移住者の生活，をテーマに現地調査を行った。

課 題：『卒業論文の手引き』にもとづき，班ごとに A4 版 20 枚以上(図表含む)のレポートにまとめる。



宮地班：美瑛町の新しい観光名所「青池」にて集合写真

中標津の人口増 背景は



調査したのは、国士館大学地理学部の加藤幸治教授(地理学)とそのゼミの学生ら。経済地理学会で交流がある釧公大の加藤和暢教授(地域開発論)も協力した。
一行は町内に宿泊しながら22、26日、東武サウスヒルズで来店客へのアンケートを実施。来店目的やその頻度、利用する理由などについて質

国士館大と釧公大が調査研究

【中標津】地方の人口減少が進む中、人口がわずかながら増え続けている中標津の都市としての特性を探ろうと、国士館大(東京)と釧公大が調査研究を行っている。今回は学生が実習で大型店でアンケートを行い、商業面での魅力を分析した。(和田年正)

大型店でアンケート 学生実習 商業面の魅力探る

来店客にアンケート調査する国士館大の学生らと、同大学の加藤幸治教授(後列右)と釧公大の加藤和暢教授(同左)。「25日午前、東武サウスヒルズ

問したほか、町役場なども訪れて聞き取り調査をした。
中標津は1946年の分村後、国勢調査で一貫して人口が増加。2005年は釧根で唯一人口が増えた。これに着目した面教授は、2年前から中標津の人口増の要因を地域経済などの面から分析する研究に着手。「中標津の独自性を調べることで、東京の一極集中に対抗できる地域振興のヒントが得られるのでは」(釧公大の加藤教授)という。
東武で3日間、調査に当たった国士館大3年の小沼大さん(20)は「中標津だけでなくやはり標準、別海など周辺から来店していた。東京と比べて夫婦連れが目立ち、1回当たり

の買い物量が多かった。搾乳を終えた酪農家が午前中に来店するのも印象的だった」と話した。
国士館大の加藤教授は「中標津は管内4町の商業の中心というだけでなく、病院などの機能との複合性も人を集める要因では。中標津に住んで周辺の町に通うベッドタウン的性格もある」とみている。

買えた酪農家が午前中に来店するのも印象的だった」と話した。
国士館大の加藤教授は「中標津は管内4町の商業の中心というだけでなく、病院などの機能との複合性も人を集める要因では。中標津に住んで周辺の町に通うベッドタウン的性格もある」とみている。

※加藤先生から、この研究の主旨と実習の様子について一文を寄せていただきました。

加藤ゼミでは今年度、地理学野外実習Cの実習地として、北海道中標津町を選定しました。

中標津町との「縁」は、加藤が研究代表者である2012～2014年度の科学研究費補助事業(以下、科研費と略)と関係します(宮地先生も研究分担者として参加してもらっています)。科研費の研究課題は「サービス立地論構築に関する基礎的研究:「いのちの重さ」の地域間格差問題との関連で」というもので、その中で、実証的研究からのアプローチとして、道東で唯一、人口増加がみられる中標津町に注目しました。その人口増加メカニズムとサービス業の立地が関係すると考えたからです。中標津町には「地域センター病院」としての町立中標津病院があり、周辺に比べて、高度な医療サービスとの近接性で明らかに「優位」な点があります。広大な道東では、一定の距離内に病院があるか・ないか、すなわち救急医療への近接性が「いのち」に直結する問題でもありますから、その立地の有無は「リアル」な問題です。

そうした問題の「克服」手段として、ドクターヘリが注目されていますが、その有効性は限界を踏まえて話すべきものであることは、当該研究の一環としてまとめ、『国士館大学地理学報告』21に掲載しました(加藤幸治・楢塚賢太郎・加藤和暢(2013):ドクターヘリ導入による「15分アクセス圏」の拡大—運航制約を考慮した効果把握のための覚書—。『国士館大学地理学報告』21, pp.1-16)。

とはいえ、人は年中「生き死に」のことばかり意識して生活してはなりません。医療サービス(病院)の立地も大事ですが、それだけによって人口増加が引き起こされるというのは少しオーバーなよう

3. レジューメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。

※ 発表では、PCプロジェクター等も使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（磯谷）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続替え等に時間を取られすぎないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。

※地域調査士の資格取得へ向けて、今年から審査前事前請求制度が始まり、3月中に認定証を受け取ることができるようになる予定です。資格取得希望者は、1月末（以降）に日本地理学会資格専門委員会から郵送される書類を熟読し、同封されている申請書に必要な事項をすべて記入し（顔写真も必要）明記のうえ、口答試験日程期間中に主査へ提出すること。その後、副査が記名・押印し、一括して返却する。この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

以下は、口答試験のプログラムです。

凡例は、次の通り。GIS：GIS 学術士取得希望者，地域：地域調査士取得希望者

【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査	GIS	地域
第1日目：2月5日（木）						
9：30～12：05 <進行：岡島>						
1	生亀 司規	鹿児島市における土砂災害と防災対策について	野口	長谷川		
2	吉川 絵里	熊谷における高温現象について	野口	長谷川		
4	松村 暁斗	観光地江の島における観光客の行動パターン	内田	加藤		
5	沼田 健人	宮城県松島町における観光客の防災意識	内田	宮地		
6	王 之チン	日本におけるグリーンツーリズムの現状と地域性	宮地	加藤		
7	中野 壮太郎	プロ野球本拠地における大都市圏と地方都市圏の対称性 －鉄道交通1時間圏による分析－	加藤	内田		
8	浮田 紗希	大学生の海外旅行に対する意識とその行動	内田	加藤		
9	大久保 洋祐	長野県小盆地における降水量の特徴について	野口	磯谷		
12：50～15：25 <進行：磯谷>						
10	生田目 祐暉	コンテンツ・ツーリズムによる観光振興について －大洗町を事例として－	内田	宮地		
11	齋藤 雅人	埼玉県におけるスーパー銭湯の地域的展開	内田	加藤		○
13	佐藤 直樹	千葉県在住者がイメージする「房総」の範囲 －千葉県の高校生を対象として－	内田	岡島		○
15	中村 友美	ヤマセの及ぶ範囲について－岩手県と秋田県を例に－	野口	長谷川	○	○
17	武藤 元気	川越市における観光客の回遊行動について －川越市の重要伝統的建造物保存地区と喜多院を事例に－	内田	岡島		
18	川口 拓也	地方自治体による都市農業政策の現状と課題 －神奈川県横浜市を事例として－	宮地	加藤		
19	千島 さつき	まちなかの言語表記からみた地域差 －小田急線の新宿駅、下北沢駅、経堂駅、新百合ヶ丘駅を事例に－	内田	岡島		○
20	松田 憲太郎	整備新幹線開業に伴う並行在来線の現状と課題 －青い森鉄道を事例に－	岡島	宮地		○

番号	氏名	題目	主査	副査	GIS	地域
15:35~18:10 <進行:内田>						
24	田所 正敏	歴史的町並みの保全と住民意識—千葉県大多喜町を事例に—	岡島	宮地		○
25	松林 里美	北海道日高山脈の東側と西側においての天気の違いについて	野口	磯谷		
26	實光 信明	過疎地域におけるコミュニティバスの現状と課題 —岡山県真庭市を事例として—	岡島	宮地		
27	吉村 美咲	東京都浅川中流域における河辺植生とその環境要因 —とくに基質による出現種の違いに着目して—	磯谷	野口		
28	田村 宏平	神奈川県境川と鶴見川における鳥類群集の分布とその生息環境 —とくに河口部付近に着目して—	磯谷	長谷川	○	○
29	西本 修司	千葉県市川市・浦安市におけるコインパーキングの立地と利用	加藤	岡島	○	○
30	郡場 桃子	伊豆大島三原山南西部における1950年代以降の噴石について	長谷川	磯谷		
32	山浦 大輝	SS地域特性からみる燃料価格決定要因—国道17号線を例に—	加藤	岡島		

第2日目:2月6日(金)

9:30~10:30 <進行:宮地>						
33	佐々木 翼	神奈川県鎌倉市におけるタイワンリス (<i>Callosciurus erythraeus thaiwanensis</i>) の分布および人間とのかかわり	磯谷	野口		
37	田口 大智	秋田県横手市増田町における伝統的建造物の保全と住民意識	岡島	内田		
38	金原 駿	火山影響下における中・大型土壌動物の生息状況	磯谷	長谷川		
10:50~12:10 <進行:加藤>						
39	小林 愛莉葉	東京都及び島嶼部における熱帯夜日数について	野口	磯谷	○	○
40	菱沼 美里	保養温泉地におけるヘルスツーリズムの現状と展開について —岳温泉を事例に—	内田	宮地		○
41	岩橋 直哉	福島市飯坂温泉における宿泊客の特徴について	内田	岡島		
42	西谷 翔太	東武伊勢崎線各駅における建築物の立地	加藤	岡島	○	
12:50~15:25 <進行:野口>						
44	中嶋 康太	関東地方一都六県のイメージ—居住地によるイメージの比較—	内田	岡島		○
46	中神 俊也	東京都小平市における農業の地域的分化とその特徴	宮地	加藤		○
47	佐川 将希	東京都練馬区におけるカラス類の営巣木の分布とその周辺環境	磯谷	長谷川		○
49	長塚 由華	茨城県守谷市における駐車場立地に関する研究	加藤	宮地	○	○
50	片岡 滉貴	コンベンション活動がもたらす効果—福岡市を事例として—	内田	宮地	○	○
51	鈴木 柚里奈	青山通りにおけるネイルサロンの立地と料金の地域差	加藤	宮地	○	○
52	助野 庄太郎	京都府における京野菜のブランド化の意義と課題	宮地	内田		
54	田中 智美	富士山麓の下部温帯域における 地質年代の異なる地域に生育する二次林の構造と動態	磯谷	長谷川		○
15:35~18:10 <進行:長谷川>						
55	吉田 真	埼玉県秩父市における 林産物資源を活用した商品開発の実態と地域効果	宮地	岡島		○
56	瀧澤 翔子	高知県四万十市における高温現象の特徴	野口	磯谷		
57	米長 知里	都市景観における色彩について —横浜中華街、神戸南京町、長崎新地中華街の比較—	内田	加藤		○
58	福田 直城	埼玉県秩父市田村地域における獣害および被害対策の実態	磯谷	宮地		
62	田中 秀典	東京都のオキシダント濃度について	野口	長谷川	○	○
63	木村 龍矢	戦災による土地利用の変化—日本橋通りにおいて—	岡島	加藤		
64	古川 丈樹	近代都市郡山の発達過程	岡島	加藤		
67	日野林 優太	西日本太平洋側における多雨地域の降水特性	野口	磯谷		

番号	氏名	題目	主査	副査	GIS	地域
第3日目：2月7日（土）						
9：30～12：05 <進行：宮地>						
68	田中 貴	地域イメージとその地域的背景－神奈川県川崎市を事例に－	内田	磯谷		○
69	大山 直人	本州太平洋沿岸地域の海面水温が陸地の気温に与える影響について	野口	磯谷		
71	湯元 梨紗	荒川中流域における淡水産貝類群集の分布とその生息環境	磯谷	長谷川		○
80	重原 優一	大規模駐車場における熱的影響について －酒々井プレミアム・アウトレットを例に－	野口	長谷川		
84	五十嵐 舞	1990年代以降の日本における水稲作の地域性	宮地	加藤		
86	奥野 杏祐	平成26年豪雪について	野口	長谷川		
92	高木 祐介	地球温暖化対策における環境自治体の可能性と問題点	野口	長谷川		
15	大江 崇文	旭川市における中心商店街の衰退と郊外店の競合	加藤	岡島		
12：50～15：05 <進行：加藤>						
22	寺田 裕貴	日高地方における冬季の降水と季節風との関係	野口	長谷川		
29	鎌田 祥嗣	神奈川県における日帰り温泉施設の実態	加藤	宮地		○
49	井口 浩輔	東京におけるヒートアイランド現象の現状	野口	長谷川		
52	黒田 篤	生産緑地法の改正に伴う都市農業の変化－関東地方を事例に－	宮地	岡島		
69	長谷川 玲大	認知地図に基づく東京の山の手と下町の範囲	内田	岡島		
109	鎌田 敬広	香川県屋島におけるマツ林の植生遷移と現状	磯谷	長谷川		
120	田中 裕也	東日本大震災に伴う関東地方内陸部の液状化被害地の比較 －南栗橋・小机・浦安を例に－	長谷川	磯谷		○

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は、卒業資格を満たしていないとみなします。